



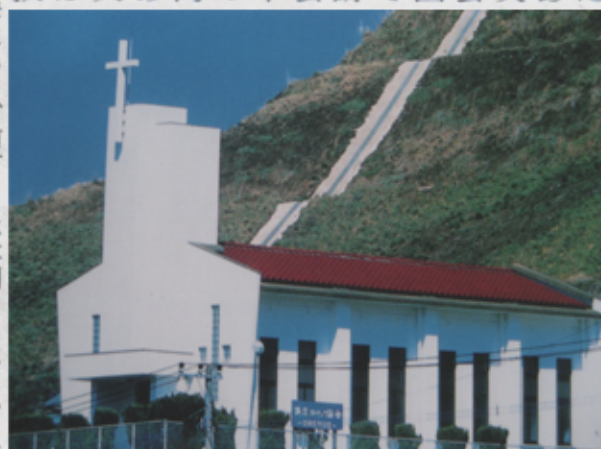
ガソリンが高い  
（上五島・長崎巡礼⑲）



今回、上五島には自家用車で行った。と言っても、友人の車で友人が運転するという楽な旅。上五島出身の友人は出発前にガソリンを満タンにした。しかし、三日間、島内を走り回ったため、一度だけ現地で給油した。一リットル百七十円。そのころ下松では百三十円弱だった。一リットルで四十円の差とは半端な数字ではない。離島は何かと不便な上、物価も高い。ガソリンのことをもう一度思い出させたの

上五島洋上石油備蓄基地

は跡次地区住民がすべてカトリック信徒の跡次教会に着いた時である。大曾教会の巡回教会である跡次教会は日本海側の青方湾岸にある。大曾とは湾を挟んだ対岸にあり、前方の湾上に大きな建物が見えた。



「上五島洋上石油備蓄基地」である。今回、島を訪ねるまで、その存在すら知らなかった。湾に浮かぶ折島と柏島を結ぶ防波堤に長さ三百九十メートル、幅九十メートルの貯蔵船が五隻。四百四十万リットルの原油が備蓄されているという。一日に日本国内で消費する石油の七日分に相当する。上五島に石油備蓄基地を持ちながら、島民

となり、昭和五十一年に廃堂となった。五島には開拓移民以外のキリシタンの歴史もあるのだ。五島列島の教会は、明治六年の禁教令撤廃後の明治時代に建てられたものばかりと思っていたが、折島天主堂のように昭和二十年の終戦以後に建てられたものがある。現在残っている二十九教会のうち、青方、高井旅、佐野原、大浦、小瀬良の五つの教会だ。



五島の教会では珍しく海が見えない佐野原教会

その中の一つ、佐野原教会は、五島では珍しい海が見えない山の中に道の間違えたのではないかと思ふほど山の曲がりくねった細い道を通ってやると着いた。海が見えるへき地でも大変なのに、そこからさらに山奥に入ったところを開拓して住んだ先祖の人たち。待望の教会がやっと建てられたのが昭和三十八年。すべてに優先して信仰を第一とした生き方をした人々を思うと胸が熱くなった。改めて五島の先人に畏敬の念を抱いたのである。（元山口放送取締役ラジオ局長）

2010/08/02